

埼玉インターハイの巻

8月4日(月)、保護者の見送りを受け、関西高校を出発した後、旭川に寄り艇・オール等を詰め込み10時過ぎにいよいよ戸田に向けて出発した。艇の中には破損修理するために乗せた物もあった。送料の節約である。岸本母と一緒に見送った。

戸田漕艇場での試合とあってボートの聖地に行けるのは嬉しいようだ。一足早い合宿所生活？宿泊所も先生のお力で(裏の手ともいう)明治大学の艇庫に決まっていた。大学の端艇部員は合宿中で戸田にはいなかったが、艇庫には別の生きものがみんなを待ち構えていた。目の前が試合会場とあって、会場までの運転も時間も気にせずにするのは有り難いようだ。

8月7日(木)、予選。

男子シングル予選3組

1. 小松明峰高校 吉原・・・3 '29 "37
 2. 海洋科学高校 山橋・・・3 '38 "61
 3. 関西高校 高橋・・・3 '40 "26
 4. 美濃賀茂高校 前田・・・3 '45 "68
 5. 柳学園高校 林・・・3 '49 "22
 6. 慶應志木高校 高橋・・・3 '50 "04
- 3着上がり予選クリア

男子ダブルスカル予選3組

1. 関西高校・・・3 '16 "35
2. 佐沼高校・・・3 '20 "12
3. 富士河口湖高校・・・3 '24 "55
4. 柳学園高校・・・3 '27 "69
5. 八幡高校・・・3 '39 "06
6. 宮川高校・・・4 '00 "13

3着上がり予選クリア、トップタイムを打ち出す、コンマ差で静岡の浜松湖南高校がいる。油断はできない。

男子クォドルプル予選6組

1. 関西高校・・・3 '07 "45
2. 慶應志木・・・3 '15 "48
3. 沼津東高校・・・3 '17 "08
4. 黒沢尻工業高校・・・3 '18 "91
5. 東筑・・・3 '22 "99

3着上がり予選クリア、トップタイムを打ち出すが福井の若狭高校も

08 “94 と強敵として頭角を表わしていた。

予選では OB のバンチャリが多数出たらしい。味野君とか誰とかがたくさん応援してくれたと聞いた。

8月8日(金)、敗者復活戦の日。前日配艇のため、午後1時までの自由行動となり、艇庫の部屋でくつろぐ？例の教科書と参考書を開く者もいたが池袋に繰り出す部員もいた。森川先生から配艇時間の知らせに注意するように言われ、昼食代1000円が配られた。

しかし、事件は起きてしまった。あれほど言われたにも関わらず、1時間も集合時間に遅れたばかりでなく、配艇時間にまで遅刻してしまったのだ。さすがにこれは笑えない。前代未聞である。では、配艇をどうしたかという、森川先生が受付に行き、電話で「工具箱はどこに有るんじゃあ！！」と探しまくって自らリギングをされた。後にこの時のことを

「今までもアホウばあじゃったが、こんなアホウはおらんかった。何をしょおったと思えますか？ブランドもんを買よおったんですわあ。東京で買わんでもええじゃろう！？お前そのベルト締めて試合に出えっ！言いましたわ。もっと、アホウが香水買うたヤツがおってなあ、そんなもん何するんや？って聞いたら、おしゃれです！じゃて、ボートばあ漕ぐのに要りますかあ？OBに聞いても香水なんか付けとるヤツなんかおりませんわ！！」

「千葉になあ、お前こんなアホウをまとめていかんといけんのぞお。よう考えやあ。って言いましたわあ。」

大笑いしてしまったが、笑い事ではない様な気がしてちょっと不安。

8月9日(土)、準々決勝。前日の大ボケを取り戻せるだろうか？この日 OB 保護者の岩崎母と一緒に戸田に到着、観戦する。一度聖地戸田を見てみたかったそうだ。林さんご夫妻も応援に来られていた。桃太郎達にきび団子を差し入れて下さった。

男子シングルスカル準々決勝 1組

1. 高島高校 杉嶋 . . . 3 ‘38 “93
2. 函館水産高校 角谷 . . . 3 ‘41 “70
3. 関西高校 高橋 . . . 3 ‘43 “83
4. 大沢野工業高校 岡本 . . . 3 ‘46 “76
5. 早大学院高校 佐藤 . . . 3 ‘48 “59
6. 潮来高校 林 . . . 3 ‘52 “78

2着上がりのため敗退。レースを終え、陸に上がった高橋君を迎えたのは谷君だった。うつむいて涙をこらえながら一言「すまん。谷」と呟いた。練習はいつも谷君が並漕してくれていた。谷君のためにも勝ち上がりがたかったのだ。

男子ダブルスカル準々決勝 6 組

1. 小浜水産高校・・・3 ‘42 “49
2. 関西高校・・・3 ‘45 “51
3. 海洋高校・・・3 ‘51 “07
4. 柳学園高校・・・3 ‘57 “31
5. 由利工業高校・・・4 ‘00 “48
6. 八百津高校・・・4 ‘01 “94

2 着上がりクリア、福井は強さを見せつけるようなレースをしていた。
苦しい戦いが予想される。

男子クォドルプル準々決勝 6 組

1. 関西高校・・・3 ‘27 “54
2. 小見川高校・・・3 ‘28 “91
3. 黒沢尻工業高校・・・3 ‘34 “76
4. 長崎明誠高校・・・3 ‘38 “20
5. 慶應志木高校・・・3 ‘41 “91
6. 米子東高校・・・3 ‘48 “42

去年、小見川に負けて順位決定に回った悔しい思い出が頭に浮かび、
絶対に勝ってくれ！！と執念が燃え盛るように大声を出して応援した
甲斐があつて？準決勝進出を決めてくれた。

明治大学艇庫は、各部屋に常備されているモノがある。台所には 1 つだけではない。そのスプレー缶が何を意味するか部員らは知らなかった。大学生がいなくなった艇庫でソレは彼らを歓迎するかのように毎夜ビックリパーティーを開いてくれた。一番の被害者は石田君、熱烈歓迎する余りソレは石田君の足を駆け上がってしまった。

「ぎぎやあああああああ・・・！！！！」

彼はこの後、お風呂でゴシゴシゴシゴシ・・・それでも感触が残っていて涙がこぼれたとかこぼれなかったとか。

私は差し入れに『バルサン』はいかがなものかと先生に聞いてみたが

「無駄でしょう。戸田全体で彼らは共存しています。」

との返事が返ってきた。艇庫に残っていた端艇部女子の一人はソレが現れると日常茶飯事と慣れきった様子で、丸めた新聞でバシバシとやっつけていると聞いた。う～～ん、我が息子はどう暮らしているのだろうか。確か以前は逃げ回りながらスプレー缶を握り締め噴射していたが・・・。

そんな中、平然とソレと仲良くする人間がいた。いいや！ソレと対等に平気で接するヤ

ツを人間と言えるかどうか？光亦君である。彼は蛭と戯れるように、そっと掬い上げ窓から外へ逃がしてあげたのだという。それを見た森川先生は背中に冷や汗をかきながら猛ダッシュして逃げ出したとか。「深夜、怖いから台所には入りたくない。」と、こぼす。どうやら先生はそうとうソレが苦手らしい。

8月10日(日)、準決勝・決勝。応援の武者震いがする。心臓がバクバクする。動悸・息切れ・目眩が？・・・まだそんな歳ではない。しかし、戸田に残っている他大OBの姿が見えない。昨日三村君には会って、少しお話しできたけど、ちょっと寂しい。

男子ダブルスカル準決勝2組

1. 今治西高校・・・3'27"12
2. 関西高校・・・3'29"22
3. 江津工業高校・・・3'29"62
4. 日田高校・・・3'30"56
5. 瀬田工業高校・・・3'32"59
6. 宮島工業高校・・・3'33"99

1・2着決勝へ、3・4着順位決定へ。めでたく決勝進出を決めた。

男子クォドルプル準決勝1組

1. 関西高校・・・3'17"54
2. 大沢野工業高校・・・3'20"77
3. 潮来高校・・・3'22"80
4. 柳学園高校・・・3'23"58
5. 伏見工業高校・・・3'27"17
6. 沼津東高校・・・3'27"83

ダブルと同じく1・2着が決勝へ。今日もトップタイムでご機嫌な気分。

藤原君のご親戚が赤羽にお住まいの為、藤原家は大人数で賑やかになる。ブルーベリーをいただいた。スーパーのより酸味が少なく甘かった。午後は決勝、一段と身が引き締まる思いだ。平松父さんの姿がヒョッコリ現れた。帰りの鬼火弾号の運転をするために来ていただいたようだが、しっかり応援もしてくれていた。そして、もう一人、横浜から駆けつけてくれた青年がいた。顔を見たら名前が直ぐ分かるほど似ている。よく似ているのに、なかなかハンサムに思ってしまうのは、どっか視神経か脳神経が可笑しいのだろうか？彼はちゃっかり明治の艇庫でチャーハンとビールをご馳走になっていた。そして、交通費もしっかり父に請求していた。お話ししてみると、お父様お母様のご教育がよろしかったのだ

ろう、言葉づかいもなかなか、気の使い方も父親ゆずり？好青年であった。彼の名字は森川と言うそうだ。

男子ダブルスカル決勝

1. 浜松湖南高校・・・3 '25 "99
2. 小浜水産高校・・・3 '28 "79
3. 今治西高校・・・3 '33 "29
4. 関西高校・・・3 '37 "93
5. 江津高校・・・3 '40 "12
6. 鳥取東高校・・・3 '40 "30

4位入賞。

男子クォドルプル決勝

1. 関西高校・・・3 '17 "02
2. 塩釜高校・・・3 '19 "19
3. 若狭高校・・・3 '20 "77
4. 小見川高校・・・3 '23 "31
5. 大沢野高校・・・3 '25 "27
6. 潮来高校・・・3 '27 "75

クォドはインハイで初優勝を決めた。今までダブルでしか優勝経歴はなかった。驚きと喜びが観覧席を包み込んだ。

引き続き、表彰式が行われた。入場して行くクルーの背中があんなに大きかったかな？と思うほど、とても大きく見えた。表彰され手に抱えきれないほどの賞状やら盾やらメダルを貰い、立派な優勝旗を渡された。しかし、喜んではいたものの、弾けるような体全体からにじみ出てくる歓喜を感じる事ができなかった。私の思い過ぎだろうか？一番ウキウキと喜びを滲ませていたのは森川先生だった。欲しくて欲しくて仕方なかった、念願のインハイクォド優勝がやっと手に入ったのだ。喜びのオーラバリバリで、記念撮影も本来生徒だけの筈が、関西だけ先生付きで撮ってもらっていた。

他校の監督が、ポツリと話し掛けてきた。

「一番喜んでるのは、監督ですね。」

「国体では、負けませんよ。今までインハイと国体、両方勝ったチームは無いです。」

若狭高校の監督さんのようだ。

今度は、保護者のカメラで記念撮影がはじまり、選手・保護者全員笑顔での写真を撮って終了。直ぐに引き上げ準備にかかった。岡山への長距離運転が始まるのだ。

選抜クォドクルーは、先生に預けておいた、メダルを晴れて返してもらった。千葉チームの目標は国体優勝。浮かれてはいられない。インハイに勝った瞬間から大きなプレッシャーが肩に感じられたのだろう。まして、この1年勝ち続けたため、グランドスラム・4冠のプレッシャーまで乗かってきた。すごい重圧を感じないわけが無い。

上谷さんより、2位に入った塩釜高校の記事が送られてきた。彼らはリベンジに燃え、『打倒！関西』を目指して、再び襲い掛かる事を決意していた。勿論、福井も更にレベルアップしてくると容易に予想できる。『がんばれ！！関西！！負けるな！！関西！！』

もう1つ、戸田からのお土産があった。艇庫の食堂にポスターが張ってある。明治大学のポスターなのだが、文章は植村直巳氏の言葉を引用していた。

“それは・・・明治ですから”

いたく気に入られた森川先生は、その文章をちょっとアレンジして、とうとうTシャツにされてしまった。このTシャツはOBでも十分使用に耐えられるデザインだったので、19年組だけでも15枚は売れたのではないだろうか。商売繁盛？で、こちらも、めでたしめでたし？？？・・・儲けは無いと思う。赤が出なくておめでとうございます。かな？